

市政を問う

一般質問



優しい社会を目指して



竹中 理 議員
(公明党豊岡市議員)

フードバンク事業で 市民参加運動を広げよう

問 まだ十分に食べられる食品が捨てられてしまいう食品ロスについて、行政も食品ロスゼロに向けて果敢に取り組むべきと国も訴えている。市も市民運動の意識向上を図る一つの方法として、未利用食品を生活困窮者や児童養護施設に届けるフードバンク事業の取組みを行ってほしい。その実施にどのような問題点があるか。

答 市内に子ども食堂ができたとき聞き喜んでいますが、取組み状況と実施における問題点はあるか

問 日本では貧困世帯で暮らす17歳以下の子どもが6人に1人いる。生活再建に向かうためには必要な取組みと認識している。地域、市民全体で支える意識を高めて、市民から食料の寄付を募るといったフードバンク事業に8月頃を目途に取り組む。運営に当たり問題点は食料の継続的な調達、倉庫の確保、食料の消費期限の管理、支援の回数などの事前調整など。フードバンクの利用者には

食料の提供だけでなく、ライフラインの復旧といった金銭支援も必要。実施団体の社会福祉協議会では、現在7日間としているが、さらに支援期間の延長も検討している。子ども食堂の取組みは月2回、豊岡健康福祉センターの1階において第2・4木曜に開設している。引きこもりの方々の就労体験も兼ねてスタッフとして一緒に活動している。問題点は食料の調達に厳しいこと、生活困窮者への周知、継続のための市民や協力店からの食糧支援など。

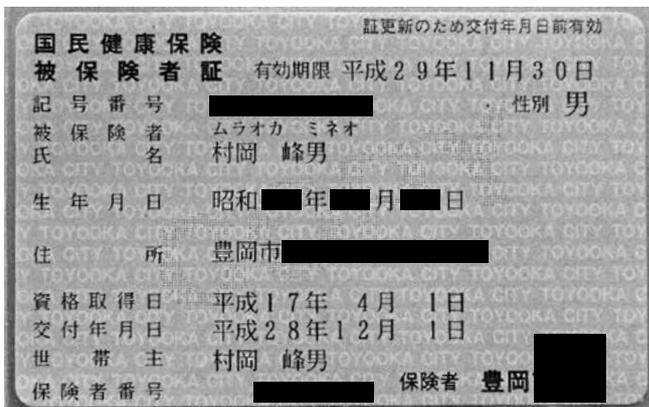
問 是非これを機会に市民活動がどんどん向上するようお願いしたいが

答 地域の市民全体で支えていく意識を高める狙いで社会福祉協議会を主体にフードバンク事業の8月頃の立ち上げに努めていきたい。



村岡 峰男 議員
(日本共産党・あおぞら豊岡市会議員団)

国保税、また今年も 引き上げるのか



いのちと健康を守る証「国保証」

等により医療費は増加している。繰越金の活用や基金の取り崩しをしても、医療費の増加に見合う税率の引き上げはやむを得ない。

問 モデル世帯の税額の中で、200万円

答 3年後の市民の医療をどう守るかということだ。基金を多く取り崩すことは3年、4年目に医療制度そのものが存在、成立し得るのかどうか。医療制度が成立しないと、自分で医療費を払えるものしか医療を受けられないことになる。

問 被保険者一人当たり2・6%の引き上げで11万2544円との提案だ。金額にして2749円が増額となる。昨年9809円の引き上げで、2年で1万2558円もの引き上げである。市民の所得が向上していない中で引き上げの見解は

答 近年、医療技術の高齢化、被保険者の高齢化

問 被保険者の生活実態に寄り添っていただき

対話と共感 は市民目線で

問 市長は、4期目の市政運営を対話と共感を基本に据えると言うが、共感より説得する目線になっていないか

答 上から目線になるなという「いさめの言葉」と思い、反省も込めて貫いていきたい。

市政を問う



井上 正治 議員
(とよおか市民クラブ)

民泊について

問 国において「住宅宿泊事業法案」が審議成立の見込みだが、市の見解と今後の取組みは

答 特に家主不在型が、非常に大きな問題を秘めている。

国の観光の進むべき方向は、安売りでなく質の高いものを提供し、やりがいのある仕事を作る方向でなければいけない。城崎・竹野・神鍋の観光にとって、大打撃になる可能性がある。

生活環境の悪化、市の観光産業の現状と将来進むべき方向に照らしてみても、民泊はプラス要素が少ない。

法律が施行されると、法律の範囲内でしか対応できないので、県との協議・市独自でできることがないのか、検討を重ねている。

民泊への対応と環境への取組み

問 本市の民泊の現状は

環境への取組みについて

問 バイオマス構想における豊岡産ペレット製造量・使用量と赤字状況についてどうか

答 灯油化石燃料の価格の低下、温泉施設の入込み客の減少における経費削減によるペレットの使用控えによるもの。

そういう状況で北但東部森林組合と市で経費削減等について点検・話し合いをしていく。引き続き温泉施設にペレット

使用の協力依頼を行っている。

問 太陽光発電設置における課題が見えつつあるかどうか

答 市の区域で市の景観条例を制定している。面積により事前協議と届け出をしていただく。農地転用、開発関係は別途の規制になるが、小規模なものについては難しい状況である。

市民との対話、市民と共に創るまちをどのような手法でつくるのか

問 市民からの声もあるが、いのちへの共感に満ちたまちづくり条例の理念を学校教育の中で取り上げるべきではないか

答 命を大切にすることは教育の一丁目一番地である。世界から尊敬され輝くためには、違いを認め、多様性を受け入れ、みんなで協働して結論を出していくというまちのあり様が必要だ。

命を大切にすることは教育の一丁目一番地である。



ペレットボイラー設置施設 (神鍋温泉ゆとろぎ)



井垣 文博 議員
(とよおか市民クラブ)

中貝市政4期目「対話と共感」の実現を

問 市民との対話、市民と共に創るまちをどのような手法でつくるのか

答 対話と共感を基本に市民やさまざまな団体とのワークショップなどを通して共通の目標達成に向け議論し、協働の中で創り上げたい。

問 基本構想で目指すまちの将来像『小さな世界都市』は高齢者や障がい者にも居場所があり、生きがいを持って暮らすことのできる社会か

答 世界から尊敬され輝くためには、違いを認め、多様性を受け入れ、みんなで協働して結論を出していくというまちのあり様が必要だ。

問 市民からの声もあるが、いのちへの共感に満ちたまちづくり条例の理念を学校教育の中で取り上げるべきではないか

答 命を大切にすることは教育の一丁目一番地である。

命を大切にすることは教育の一丁目一番地である。



小さな世界都市へー子どもたちの英語教育ー

問 松島興治郎さんの功績を後世に引き継ぐものとして検討する。また、多くの方々の顕彰についても時期やタイミングを考えながら検討する。

答 朝鮮半島有事の際、市民の安全をどのように確保するのか、また、漁業への影響はどうか

ある。条例にルビが振ってあることは子どもたちへのメッセージであり、良い教材として検討する。

問 コウノトリの野外生息数が一〇〇羽を超えるのを機会に、コウノトリを大空に返すという約束を胸に献身的に貢献された関係者を顕彰し、その思いを後世に伝えていくことが必要ではないか

弾道ミサイル情報については、全国瞬時警報システムが発動され、防災行政無線や緊急通報メーイルを通じて市民に伝える。初動時は市民自ら安全対策を取ってほしい。漁業への影響は計り知れず、関係機関と連絡を密に。とって対応する。

命を大切にすることは教育の一丁目一番地である。

命を大切にすることは教育の一丁目一番地である。